

階層分化装置としての「開かれた住まい」

高橋 均 (光塩学園女子短期大学)

I. 問題の設定

住宅は、「高価であるがゆえに、家計のライフサイクルを通じて最も困難かつ重大な経済的決定の一つを行う機会となる消費財」(Bourdieu 2000=2006, 37 頁)であるが、とりわけ、子育て世代にとっては、「教育空間」として重要な意味をもつ。子どもの教育が、「個人的出世の道と見なされ」、家族が「一種の集団的エゴイズムの場」(前掲同書、262 頁)となっている今日にあって、どのような居住空間を取得し、教育的編成するのかということは、家族の再生産戦略の表象となる。では、今日、どのような居住空間が編成され、社会にどのように配分されているのだろうか。またそれは、教育空間としてどのように機能しているのだろうか。

以上の問題意識から、本研究では、1990 年代以降主流となった居住空間である「開かれた住まい opened residence(以下、O.R.)」に焦点を当て、①「O.R.」の称揚過程(正当な居住空間編成パラダイムの社会的構築過程)の分析、②消費財・有形財としての「O.R.」の社会的配分状況の分析、③教育空間としての「O.R.」の機能の分析を行い、「O.R.」が階層分化装置としていかに機能しうるのかについて考察する。

II. 称揚される「開かれた住まい」

戦後の居住空間の教育的編成をめぐる言説空間を再構成すると、居住空間の教育的編成をめぐる「正しさ」を規定するシステム、すなわち、「真偽の区別を可能にする機構と審級」としての「真理の体制 regime of truth」(Foucault 1980)の転換をみることができる。

本研究では、1945～2010 年 4 月までに刊行された、「住まいの間取りはこうあるべきである」「望

1 ブルデュー(Bourdieu, Pierre)は、その著書『住宅市場の社会経済学』(2000=2006)において、住宅の商品的価値が社会的に構築され、消費財・有形財として購入されるに至る道筋を詳細に描いている。また、バーンSTEIN(Bernstein, Basil)は、論考「階級と教育方法——見える教育方法と見えない教育方法」の付論で、「類別 classification」と「枠づけ framing」の概念を用いて、住宅内部の空間構成を階級と関連づけて分析するアイデアを提示している(Bernstein 1978=1985, 160-167 頁)。

ましい子ども部屋とはこうあるべきである」とする記述をもつ 210 件の著作からテキストサンプルを収集し、居住空間の教育的編成をめぐる言説空間を再構成した。その結果、子どもに個室=勉強部屋を与えることを称揚する「閉じられた住まい closed residence(以下、C.R.)」のテキストは 1950～80 年代まで主流をなしてきたが、1990 年代以降は、「O.R.」を称揚するテキストが支配的な言説空間が創出されたことが明らかになった。

「C.R.」称揚のテキストが言説空間において支配的な位置を占める第一の「真理の体制」は、戦後永らく、その規制的効果を維持し続けた。しかし、1990 年代を転換点とし、その自明性は揺るがされ、子ども部屋を作らずに、「家全体をワンルームに近いかたちにして、互いの気配が分かるようにする」(原 2005, 67 頁)ことを称揚する、第二の「真理の体制」が成立するに至る。

III. 市場における「開かれた住まい」称揚言説

居住空間の教育的編成をめぐる新たな「真理の体制」は、市場における言説をどのように規制するのか。ここでは、住宅販促カタログからなる言説空間を再構成し、その特徴について分析した。

分析には Word Miner を用い、民間デベロッパ 18 社の販促カタログのテキストコーパスから、頻度 10 以上の、特徴的な構成要素を抽出した。

最も頻度および構成要素数構成比が高かったのは、「コミュニケーション」(39 回/21.0%)であり、以下、「空間」(30 回/16.1%)、「気配」(22 回/11.8%)、「ふれあい」(21 回/11.3%)、「自然」(19 回/10.2%)と続く。

構成要素数構成比の比率が高い構成要素から、住宅販促カタログ上の O.R. 称揚言説が強調するのは、「開放的な空間で、親が子どもの気配を感じ、親子のコミュニケーションやふれあいが深められる」という、O.R. のメリットであると解釈できる。

IV. 「開かれた住まい」の社会的配分状況

第 II 節・第 III 節における検討から明らかとなったように、居住空間編成パラダイムは「C.R.」から「O.R.」へと転換した。では、主流となった「O.R.」

にアクセスしているのは、どのような人々なのだろうか。2010年の注文・分譲住宅の社会的配分状況をみよう(国土交通省住宅局編・発行[2010]『住宅市場動向調査』)²。以下の表中の数値単位は%、無回答は除く。

表 1. 世帯主の職業別注文・分譲住宅購入状況

職業	注文住宅	分譲住宅
会社・団体職員	44.7	65.0
会社・団体役員	15.6	17.0
公務員	14.8	8.6
自営業	7.4	3.9
年金受給者	6.0	0.3
無職	5.1	2.9
派遣・短期社員	1.7	0.8
農林漁業主	1.4	0.0
その他	2.4	1.0

表 2. 世帯年収別注文・分譲住宅購入状況

世帯年収	注文住宅	分譲住宅
400万円未満	15.7	5.0
400～600万円未満	30.2	27.2
600～800万円未満	22.5	26.6
800～1000万円未満	12.0	17.2
1000～1200万円未満	5.6	9.4
1200～1500万円未満	3.3	5.7
1500～2000万円未満	2.4	4.7
2000万円以上	1.3	0.5

表 3. 注文住宅・分譲住宅の居住人数

居住人数	注文住宅	分譲住宅
1人	3.2	5.2
2人	21.2	20.9
3人	24.9	31.3
4人	31.1	32.1
5人	12.6	5.5
6人	5.9	2.3

表 4. 注文・分譲住宅購入世帯主の年齢

年齢	注文住宅	分譲住宅
30歳未満	5.8	11.0
30歳代	36.5	56.4
40歳代	19.1	21.4
50歳代	17.6	6.0
60歳代	20.5	2.6

以上のデータから浮かび上がる注文・分譲住宅の主たる購買層は、30～40歳代で、年収400～800万未満の、子どもを1～2名もつ会社団体職員・役員や公務員である。

² 調査概要 ①調査対象と調査方法 注文住宅：「平成19年から平成20年3月の間に自分自身の注文住宅を建築して購入済み」の世帯主への郵送調査 新築住宅：「新築の分譲住宅を購入し、入居済み」の世帯から抽出された対象地域56地点の該当住宅への訪問留置調査 ②調査票回収結果 注文住宅：配布数3586、回収数996、回収率35.6% 分譲住宅：配布数410、回収数383、回収率93.4%

V. 階層分化装置としての「開かれた住まい」

バーンステインによれば、新中間層が志向する「見えない教育方法 invisible pedagogy(以下、I.P.)」が展開されるためには、①非常に広い平面という物的基礎、②子どもにとって利用可能な空間がかなり広いこと、③空間間の人間や物の流れがごく弱い形で分類されていること等の条件が調うことが必要となるという(Bernstein 1978=1985、141-142頁)。「O.R.」は、このような空間的諸条件を満たしている。

「O.R.」で生活するなかで、子どもが暗黙に獲得するのは、「類別の弱い空間で、主体的に学習に取り組む」という「隠れたカリキュラム」または「教育コード」(C/F)である。「O.R.」を採用する親は、「最大限の監視ができるような文脈」(Bernstein 1978=1985、143頁)において、以下のような場面にあるように、明示的な統制をすることなく、子どもを学習活動へと導くことができる。

…家族が一緒に座るテーブルなので何をやっているか一目瞭然だが、手取り足取り教えないのが西宮家の流儀だ。「勉強しろ、とは言いませんね。アドバイスはしますが、自分で考えて、どうにかやっているのを、私は料理をしながら見守っている感じです。」³(読売新聞社編・発行『読売ウィークリー』2006年10月号、78頁)

「O.R.」は——そこで生活する子ども数の違いを捨象すれば——教室と同様の類別の弱い空間で、監視する者(伝達者：教師)と監視される者(獲得者：児童・生徒)の関係性を生起させる、いわば「教室化」された居住空間である。学校生活において子どもたちが過ごす時間が最も長い空間である教室と居住空間との間に連続性があるか否かが、子どもの学校での成功を左右する。「O.R.」を所有し、濃密な教育的まなざしを居住空間全体に張り巡らせながら、子どもを能動的学習者として主体化していくことができるか否かが階層再生産のファクターのひとつとなりうる、新たな階層分化状況の出現を、ここにみいだすことができるのではないだろうか。

<参考文献>

- Bernstein, Basil(1978) *Class, Codes and Control Vol. III: Towards a Theory of Cultural Transmissions*, Second Edition, Routledge & Kegan Paul Ltd.(=荻原元昭編訳[1985]『教育伝達の社会学——開かれた学校とは——』明治図書)
- Bourdieu, Pierre(2000) *Les Structures Sociales de L'économie*, Éditions du Seuil.(=山田鋭夫・渡辺純子訳[2006]『住宅市場の社会経済学』藤原書店)
- Foucault, Michel(1980) *Power /Knowledge: Selected Interviews and Other Writings, 1972-1977*, Pantheon.
- 原真(2005)『自分らしい住まいを建築家と作る』コモンズ

³都内の区立小学校から武蔵中学に合格した、会社役員のお父さんをもつ4人家族の事例。